

平成 26 年度大台ヶ原自然再生推進委員会（第 1 回）

議事概要

◆日時 平成 26 年 8 月 25 日（月） 10:00 ～ 12:00

◆場所 奈良商工会議所 大会議室

◆出席者 別添 議事次第 出席者名簿参照

◆議事

(1) ワーキンググループの設置について

(2) その他

◆議事概要

1. ワーキンググループの設置について

(1) 大台ヶ原自然再生推進委員会設置要領について（資料 1）

【設置要領について】

- ・ 設置要領 5. (2) 委員長は、自ら本委員会に出席することができない場合は、あらかじめ本委員会の議事進行にあたる委員長代理を指名することができる、としている箇所は「指名する」が適切。（鳥居委員）
- ・ 6. (2) に示されている担当する委員と事務所長が委嘱する委員の違いは何か。（鳥居委員）
→担当する委員は、あらかじめ各ワーキンググループ（以下「WG」）の担当として議題に応じて決められている委員。一方、そのときどきの課題に応じて招集する委員もいるという意味。（事務局）
→事務所長が委嘱する委員の前に「必要に応じて」という言葉を入れておいてほしい。（鳥居委員）
- ・ 9. (2) 各WGは非公開とする、とあるが、推進委員会（公開）とWG（非公開）の内容はどう違うのか。WGも公開で良いと考えている。（松井委員）
→委員がご了承して頂けるのであれば公開でも良いと考えているが、希少種に関するWGなどは非公開とすべきと考えている。（事務局）
→予算の問題も含んだ話し合いをすることもあるので公開では困ることもある。WGは非公開だが議事概要は公開することで良い。（村上委員長）
→「議事概要は公開する」と付け加える。（事務局）
- ・ 修正した設置要領は後ほど各委員に送付する。（事務局）
- ・ 本委員会は平成 26 年 8 月 25 日を持って設置された。

【委員長の選出について】

- ・ 委員長として村上委員が選出された。

(2) ワーキンググループの設置について（資料 2、資料 3）

- ・ 設置要領に従って、まず委員長代理を決めておく。鳥居委員にお願いしたい。（村上委員長）（特に異議なし）
- ・ これまでの部会では連携がうまくいかなかったから今年度からWGにするというのは良いが、各WGの連携についてはどう考えているのか。合同で実施することなども必要になってくる。（村上委員長）
- ・ ここに示されたWGの名称と検討内容について、しっかりと議論しておいた方が良い（村上委員長）。

- ・ 設置要領では委員の任期は計画期間となっているがWGの設置期間は今までどおり5年という考え方なのか。(松井委員)
- ・ WGは5年間固定されているのかということである。(村上委員長)
 - 基本的にWGは5年間固定でよいと考えている。新たな課題が出てきても今、案として提案しているいずれかのWGで検討できると考えているが、必要に応じて新たにWGを設置することも可能なので、柔軟に対応していきたい。(事務局)
- ・ ニホンジカの特定計画の決定についてはWGで実施するのか。推進委員会で決定しなくとも良いのか。WGで決定できるようにしているならそれでも良い。(村上委員長)
 - ニホンジカの特定計画の決定に特化したWGを作るのか、委員会で決定するのか、改めてご相談しながら検討したい。(事務局)
- ・ 委員は担当委員として所属していないWGにも参加できるようにしてほしい。(高田委員)
 - 担当外の委員を排除しているものではなく必要に応じてご意見を伺うことができるようにしている。(事務局)
- ・ WGが開催されることは全ての委員に連絡する。(村上委員長)
- ・ WGの検討内容について意見を述べたいものが参加できるようにしておいた方が良い。(高田委員)
- ・ ニホンジカの適正密度と個体数調整を別々に実施するというのはどうなのか。(村上委員長)
- ・ この2つは一緒にすべきである。適正密度を決めて、個体数調整ができる。(鳥居委員)
- ・ ニホンジカ適正密度WGの「適正密度」という言葉が少し奇異に感じる。WGは森林とニホンジカに分かれているが連携する必要があるのでは。(松井委員)
- ・ 適正とは何か。森林側とニホンジカ側で違うはず。植生が回復できるような適正密度についてはどこで検討するのか。ここに示されているニホンジカ以外の項目についてはすべて森林再生技術であると考えている。(高田委員)
- ・ ニホンジカについては、内容ごとに分けているがもう少し大きくしてその時々テーマで検討すれば良いのではないかと。(村上委員長)
 - ニホンジカの各WGについてはそのようにしたい。(事務局)
 - 「ニホンジカ保護管理WG」として一つにまとめる。ここではニホンジカに特化したWGとしておいて、必要に応じて森林生態系WGと合同で行うようにする。(村上委員長)
- ・ WGは、大まかにニホンジカと森林再生と希少種の3つにまとめれば良いのではないかと。(高田委員)
- ・ ニホンジカは保護管理WGとして1つにまとめ、森林生態系WGはそのまま残す。持続可能な利用WGも問題ない。残りの生物多様性WGをどうするかが問題であるが、動植物の相互関係については重要なことなので単独のWGとする必要がある。希少種についてはWGとして特出するかは微妙である。(村上委員長)
- ・ 希少種については生物多様性WGの検討項目の中に含まれば良い。(高田委員)
- ・ 生物多様性WGにサブグループが必要かどうか。(村上委員長)
- ・ 生物多様性(相互関係)WGの検討項目に種リストの作成が含まれている。生物多様性(動物)WGの検討項目の中に動物モニタリングが含まれている。生物多様性に関する植物モニタリングは相互作用の中に含まれてしまうというのは動物とレベルが違うように感じる。(松井委員)
- ・ 植物はこれまでの既存資料があるから特にやらなくてもいいということか。(松井委員)
- ・ 生物多様性が2つに分かれているのはどうか。生物多様性の相互関係というのは一番上にくるもの

- ではないか。動物と相互関係というように並べるので違和感があるのではないかと思う。(川瀬委員)
- ・ 生物多様性の検討項目の中に動植物リストを作るということも必要である。全体のリスト作りと相互関係の検討は内容が違う。生物多様性（動物）の（動物）はWG名からは取ってしまうが、議題としては生物多様性の中で重要な検討項目ということで良いのではないか。(村上委員長)
 - ・ 生物多様性は1つのWGで良いと思う。(鳥居委員)
 - ・ 防鹿柵内の中で植物が増えることによってどのような動物が増えるのかといったことを考えるのは重要である。あまり大きな会議になっても検討しにくいので2つのWGくらいで考えてはどうか。(村上委員長)
 - ・ 相互関係についても動物についても希少種の問題についてもすべて関係しているので1つのWGでも良いと思う。(日比委員)
 - ・ 生物多様性は1つのWGでも良いと思う。相互関係の中に植物が入ってしまっているのはおかしく感じる。1つにまとめるか、相互関係、動物、植物の3つで良いと思う。(木佐貫委員)
 - ・ 生物多様性（動物）WGは委員の中にそれぞれの専門家が一通り担当委員となっている。今までは生態系というものを考える中に植生が入ってしまっていたのだと思う。植物の担当委員は生態学をやっている人はいるが分類学をやっている人はいない。奈良植物同好会の方に協力してもらってはどうか。(松井委員)
 - ・ 生物多様性WGについては2つに分けた方が良いと思っている。(前田委員)
 - ・ WG全体のバランスを考えると持続可能な利用WGについては、大台ヶ原の中でやるものと周りへの情報発信に分けて考えてはどうか。(日比委員)
 - ・ 森林生態系WGもかなり幅広い内容を扱うことになっている。持続可能な利用WGを2つに分けるのは難しいが、今後は持続可能な利用WGをちゃんと運用していくということで、検討項目の中に情報発信も含めるということを視野に入れるということでどうか。(村上委員長)
 - ・ この議論については推進計画 2014 を無視した内容でいくことはできるのか。(村上委員長)
→計画に基づく形でWGを設置したい。(事務局)
 - ・ 検討内容に関しては年度ごとに考えるということで良いと思う。(村上委員長)
 - ・ 個々のモニタリング内容が分からないと議論できない部分もある。(村上委員長)
 - ・ 生物多様性（相互関係）と生物多様性（種多様性）の2つにしてはどうか。(村上委員長)
 - ・ 植物が見える形にしてもらえれば良いと思う。(松井委員)
 - ・ これまで動物モニタリング調査で行ってきた防鹿柵内外の比較などについての検討は、どこに入れていくのか。(自然研)
 - ・ 今まで行ってきたこともこの中で検討していけばよいと思う。少し強引ではあるが、まずはこのWGでスタートして1年やってみてはどうか。案としては「森林生態系」「ニホンジカ保護管理」「生物多様性（相互関係）」「生物多様性（種多様性）」「持続可能な利用」の5つでやってみる。(村上委員長)
 - ・ 利用WGについては普及啓発が見えるような名前にしてほしい。(高田委員)
 - ・ ワイズユースで良いのでは。(鳥居委員)
 - ・ ワイズユースWGでわかりやすいのではないか。(村上委員長)
→推進計画 2014 中の言葉を使っているので持続可能な利用WGとしている。(事務局)
→持続可能な利用（ワイズユース）WGで良いのでは。暫定的ではあるがこれでいくことにする。

(村上委員長)

- 各WGの担当委員について、トウヒ稚樹の保護を検討する時には木佐貫委員に入って頂いた方がよい。生物多様性(相互関係)WGでは、野間委員が鳥の種子散布をかなり研究しているので、担当委員にした方がよいのでは。また、外部から加藤真さんに入って頂いてはどうか。担当委員についてはここで決めてしまわないといけいないのか。(村上委員長)
→ここで確定しないといけいないというわけではない。(事務局)
- 担当委員をものすごく増やすわけにはいかないが、生物多様性(種多様性)WGでは植物の専門家も必要だと思う。(村上委員長)
→植物の先生にも課題に応じて加わって頂くようにする。(事務局)
- 生物多様性(種多様性)WGでは、地域の動物相と防鹿柵内外の問題と2つの課題がある。担当委員についても分けて考えてもよい。(村上委員長)
→予算の問題もあるので、コウモリ調査のように10年に1回の頻度で行う項目等については毎年WGで検討するのではなく、調査時に合わせてWGを実施するといった対応にさせてもらおう。(事務局)
- 1点確認させて頂きたいが、委員会の設置要領6.(3)で各WGの担当委員は本委員会をもって決定するとなっているが、今回のご意見を基に見直した担当委員についてはメール等でのご連絡とさせて頂きたい。(事務局)
→それで問題ない。(村上委員長)
- 持続可能な利用(ワイズユース)WGには地元の人も加わって頂いた方がよいと思う。(村上委員長)

2. その他

- 第2回委員会は来年2月頃に開催する予定である。(事務局)
- (大台ヶ原自然再生推進委員会は)従来の大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会の名称が変わり、部会をワーキンググループとただけで、実態は何も変わっていない。結局、利用対策部会の4名の委員が排除されただけではないか。むしろ、公開の部会でなくなった分委員のみで議論が進められ、透明性の観点から後退している。利用に関する協議会と委員会の関連性も、明確ではない。(傍聴席)

以上